

お 知 ら せ

平成29年2月12日

内閣官房

1. 本日7時55分頃、北朝鮮西岸より、弾道ミサイルが発射され、日本海に落下したとみられる。なお、我が国の排他的経済水域（EEZ）内ではないと推定される。
2. 総理には、本件について直ちに報告を行い、
 - ① 情報収集・分析に全力を挙げ、国民に対して、迅速・的確な情報提供を行うこと
 - ② 航空機、船舶等の安全確認を徹底すること
 - ③ 不測の事態に備え、万全の態勢をとることの3点について指示があった。
3. また、政府においては、官邸危機管理センターに設置している「北朝鮮情勢に関する官邸対策室」において情報を集約するとともに、関係省庁局長級会議を開催し、対応について協議した。

なお、引き続き確認中であるが、現時点において、付近を航行する航空機や船舶への被害報告等の情報は確認されていない。
4. 今回の弾道ミサイルの発射は、航空機や船舶の安全確保の観点から極めて問題のある行為であるとともに、安保理決議等への明白な違反である。我が国としては、このような北朝鮮による度重なる挑発行為を断じて容認できず、北朝鮮に対し、厳重に抗議を行うとともに、強く非難した。
5. 引き続き、情報の収集・分析に全力をあげ、今後追加して公表すべき情報を入力した場合には、速やかに発表することとしたい。

17年2月12日の北朝鮮による弾道ミサイルの発射について (イメージ)

2017年2月12日
防衛省



2016年に行われた北朝鮮による挑発事案

核実験
弾道ミサイル発射

日付	挑発の概要	場所	弾種	飛翔距離
16.01.06	4回目の核実験を実施	豊溪里(プンゲリ)	—	—
16.02.07	「人工衛星」と称する弾道ミサイルを発射	東倉里(トンチャリ)	テポドン2派生型	約2,500km(2段目落下地点)
16.03.03	短距離発射体6発を発射	元山(ウオンサン)付近	300ミリ多連装ロケット(可能性)	約100~150km(韓国合参)
16.03.10	「スカッド」と推定される弾道ミサイル2発を発射	西岸・南浦(ナンポ)付近	スカッド(推定)	約500km
16.03.18	「ノドン」と推定される弾道ミサイル1発を発射	西岸・肅川(スクチョン)付近	ノドン(推定)	約800km
16.03.21	短距離発射体5発を発射	東部・咸興(ハムフン)南方	300ミリ多連装ロケット(可能性)	約200km(韓国合参)
16.03.29	短距離発射体1発を発射	元山(ウオンサン)付近	300ミリ多連装ロケット(可能性)	約200km(韓国合参)
16.04.01	短距離地对空ミサイル3発(内2発は失敗)を発射	宣徳(ソンドク)付近	短距離地对空ミサイル(KN-06)(可能性)	約100km(韓国報道)
16.04.15	弾道ミサイル1発を発射	東岸地域	ムスダン(指摘)	不明
16.04.23	潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)1発を発射	新浦(シンポ)沖	SLBM(推定)	約30km(韓国合参)
16.04.28	「ムスダン」と推定される弾道ミサイル2発を発射	元山(ウオンサン)	ムスダン(推定)	不明
16.05.31	中距離弾道ミサイル(IRBM)1発を発射	元山(ウオンサン)	ムスダン(可能性)	不明
16.06.22	「ムスダン」と推定される弾道ミサイル2発を発射	元山(ウオンサン)	ムスダン(推定)	1発目: 約100km(最大) 2発目: 約400km
16.07.09	潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)1発を発射	新浦(シンポ)沖	SLBM(推定)	数km(韓国報道)
16.07.19	弾道ミサイル3発を発射	西岸・黄州(ファンジュ)付近	スカッド又はノドン(可能性)	1発目: 約400km 3発目: 約500km
16.08.03	「ノドン」と推定される弾道ミサイル2発を発射	西岸・殷栗(ウンニョル)付近	ノドン(推定)	約1,000km (1発は発射直後に爆発)
16.08.24	潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)1発を発射	新浦(シンポ)付近	SLBM(推定)	約500km
16.09.05	弾道ミサイル3発を発射	西岸・黄州(ファンジュ)付近	スカッド又はノドン(可能性)	約1,000km
16.09.09	5回目の核実験を実施	豊溪里(プンゲリ)	—	—
16.10.15	「ムスダン」と推定される弾道ミサイル1発を発射	西岸・亀城(クソン)付近	ムスダン(推定)	不明
16.10.20	「ムスダン」と推定される弾道ミサイル1発を発射	西岸・亀城(クソン)付近	ムスダン(推定)	不明

北朝鮮が保有する弾道ミサイル

(出典:防衛白書、JANE'S STRATEGIC WEAPON SYSTEMS等)



	トクサ	スカッドB/C/ER	ノドン	ムスダン	テポドン2	KN-08/KN-14	SLBM (KN-11)
射程	約120km	約300km/約500km/約1000km	約1,300km	約2,500~4,000km	約6,000km/約10,000km以上	5,500km以上 (ICBMとの指摘)	不明
概要	<ul style="list-style-type: none"> 北朝鮮が96年にSS-21及びTELをシリアより入手し開発したとの指摘 固体燃料推進方式 	<ul style="list-style-type: none"> 80年代半ば以降、スカッドB/Cを生産・配備 スカッドCは推進剤タンクを大型化、ERは胴体部分の延長や弾頭重量の軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> スカッドCのエアフレーム及びエンジンを大型化 我が国のほぼ全域がその射程内に入る可能性があり、既に配備されていると考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 北朝鮮が90年代初期に入手したロシア製SS-N-6を改良したとの指摘 現在開発中とみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 1段目にノドンの技術を利用したエンジン4基を、2段目に同様のエンジン1基を利用と推定 派生型は更に3段目の推進装置を付加し射程を延長 現在、開発中とみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年4月及び2013年7月の閲兵式に登場 2015年10月の閲兵式にはこれまでと異なる形状の弾頭部で登場(KN-14と呼称) 現在開発中とみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 北朝鮮が90年代初期に入手したロシア製SS-N-6をベースに開発したとの指摘 固体燃料推進方式で開発中の可能性 現在開発中とみられる
運用	TEL	TEL	TEL	TEL	発射場	TEL	コレ(新浦)級潜水艦
実績等		<ul style="list-style-type: none"> 06年7月5日にキテリオンから発射されたものと考えられる 09年7月4日にキテリオンから発射された可能性 14年:合計5回発射 15年3月2日にナンポ付近から発射 16年3月10日にナンポ付近から発射 16年7月19日にラテンジュ付近からスカッドまたはノドン(可能性)を計3発発射 16年9月5日にラテンジュ付近からスカッドまたはノドン(可能性)を計3発発射 	<ul style="list-style-type: none"> 93年5月の発射実験で使用された可能性が高い 06年7月5日にキテリオンから発射されたと考えられる 09年7月4日にキテリオンから発射された可能性 14年3月26日にスクチョン付近から発射 16年3月18日にスクチョン付近から発射 16年8月3日にウニユル付近から発射 	<ul style="list-style-type: none"> 16年4月にウォンサンから発射され失敗と推定 16年5月にウォンサンから発射され失敗した可能性 16年6月にウォンサンから発射 16年10月にクソン付近から発射し、失敗と推定 	<ul style="list-style-type: none"> 06年7月5日にテポドン2をテポドン2地区から発射し、失敗 09年4月5日のテポドン2地区からの我が国上空を飛び越える発射でテポドン2または派生型を利用 12年4月13日の東倉里(トンチャンリ)地区からの発射でテポドン2または派生型を利用、発射は失敗 12年12月12日の東倉里地区からの発射でテポドン2派生型を利用、何らかの物体を地球周回軌道に投入 16年2月7日の東倉里地区からの発射でテポドン2派生型を利用、12年12月と同様の状態で飛翔させ、何らかの物体を地球周回軌道に投入 	<ul style="list-style-type: none"> 発射実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> 15年5月 北朝鮮、SLBM試験発射に成功と発表 16年1月 北朝鮮、SLBMの射出試験映像(15年12月の金正恩党委員長(15年12月の金正恩党委員長の活動に関する記録映画)を放映 16年4月、日本海上より発射 16年7月、新浦沖より発射 16年8月、新浦付近より発射

日米首脳共同記者会見

平成29年2月
外務省

日本時間本12日、安倍総理は、トランプ大統領と共同記者会見を行ったところ、右発言の概要は以下のとおり。

(安倍総理)

今般の北朝鮮のミサイル発射は断じて容認できません。北朝鮮は国連決議を完全に遵守すべきです。先程トランプ大統領との首脳会談の中において、米国は常に100%日本とともにあるということを明言されました。そして、その意思を示すために、今、私の隣に立っておられます。私とトランプ大統領は日米同盟を更に緊密化し、強化していくことで完全に一致しました。私からは以上です。

(トランプ米大統領)

米国は、偉大なる同盟国である日本を100%支えるということを皆さんに理解し、知ってもらいたい。

I just want everybody to understand and know that the United States stands behind Japan, a great ally, 100%. Thank you.

(了)